

# 個性把握するヒントに

## 十人十色

15

子どもたちの今

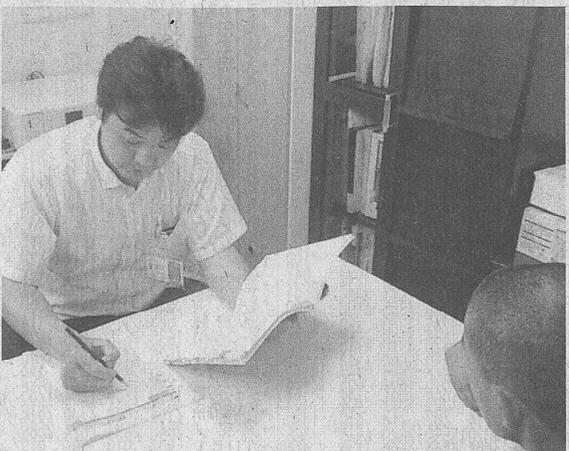
発達障害かどうかを判断する方法の一つに、知能検査や発達検査があります。知能検査は「ウェクスラー式知能検査」が一般的で、年齢に応じて子ども用の「WISC（ウィスク）―Ⅳ」や青年～大人用の「WAIS（ウェイス）―Ⅲ」と分かれます。心身の発達を調べるには「新版K式発達検査」などがあります。検査を受けることで、子どもに「障害」のレッテルを貼られることを心配する保護者も少なくないでしょう。しかし、検査はあくまで傾向や特性を知るためのもので、診断を下すものではありません。

子どもの得手不得手を把握すること、学校や家庭でのより

## 発達特性の検査

適切な関わり方を探ることができます。▽友達とのトラブルが多い▽注意力が散漫でウロウロして叱られる▽板書が苦手で勉強についていけない―といった場合、検査はその原因や適切な支援を考える一つのヒントになります。

中学で不登校になったC子さんは、3年生になって進路を考える際、検査を受けました。結



アットスクールでの検査の様子（草津市で）

果は、単純な視覚情報を素早く正確に処理、識別することが苦手というものでした。検査を受ける様子から、間違えることに不安が強く、考える時間が一定必要なこともわかりました。

そこで、勉強では▽数をこなすよりも一つひとつ丁寧に取り組む▽可能であれば書くよりも口頭で解答を求める▽優先順位の付け方やスケジュールの立て方を指導する―といったことが有効と思われました。

「間違えることに不安が強い」のは「慎重に考えることができず」長所とも言えます。C子さんにもそう伝え、自己理解を深めてもらう機会になりました。

認知特性だけでなく、発達の状況、心理や行動パターンを把握できれば、より深く子どもを理解できます。困り事を見える化し、適切な指導や支援につなげる。そして子どもの自尊心を高める。これが、検査の最終的な目的だと考えています。

（発達支援塾アットスクール代表 鈴木正樹）